

平成30年度 美術館自主事業一覧（企画展）

No.	事業名	会期・会場	内容	鑑賞者数
1	改組新第4回日展大分展	2018年4月5日(木) ～5月6日(日) 展示室A、展示室B	わが国で最も長い伝統を有し、また最大の規模を誇る公募美術団体「日展」。大分県からもここを舞台に、朝倉文夫、福田平八郎、高山辰雄、岩澤重夫らが活躍し、わが国の美術界に大きな足跡を残してきた。この日展の改組新第4回展を、地元の大分合同新聞社とともに誘致、開催し、現代の美術の一面を紹介した。	12,594人
2	アート&デザインの大茶会 マルセル・ワンダース、須藤玲子、ミヤケマイ	2018年6月15日(金) ～7月22日(日) 展示室A	「おおいた大茶会」をテーマに開催される「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」を記念し、当館アトリウムで展示中の「ユーラシアの庭」の三作家、マルセル・ワンダース、須藤玲子、ミヤケマイによる「茶室」を設置して、茶湯の大成者・千利休の創造性あふれる精神を現代に甦らせた。	6,212人
3	人間・高山辰雄展 森羅万象への道	2018年7月7日(土) ～8月19日(日) 展示室B	世田谷美術館との共同企画で、戦後の日本画壇をリードした大分市出身の日本画家・高山辰雄の芸術の全体像を、代表的な作品や興味深い資料で紹介する大規模な回顧展。生涯求め続けた「日月星辰」の世界を通じて、人間・高山辰雄の実像に迫った。	6,394人
4	日本モダンの精華 京都近代美術館コレクション	2018年9月28日(金) ～10月21日(日) コレクション展示室	京都国立近代美術館が所蔵する近現代の日本美術の名品を多数紹介し、歴史と伝統が育んできた京文化の精華にふれあう機会を提供するとともに、同館に収蔵されている「首藤コレクション」の一部を展示した。	8,433人
5	おおいた美術散歩 OPAM&豊の国	2018年10月2日(火) ～11月25日(日) 展示室B	「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」が、県内5ブロックに分けて事業展開するのに併せ、ブロック内の市町村や文化施設等の協力も得ながら、それぞれの地域に特徴的なアート事情を出身作家の作品や資料等で紹介することで、「おおいたの美術」の魅力をひろく発信する。	13,606人
6	「海と宙(そら)の未来」展	2018年10月2日(火) ～11月25日(日) アトリウム特設会場、コレクション展示室	JAXA、JAMSTECの協力を得ながら、海洋開発や宇宙探査のこれまでの成果と今後の展望を資料やパネル類で紹介し、自然史的観点から地球環境に身近にふれあうことのできる機会を提供する。会期中は、最寄りの西大分港に海洋調査船を招来するなど、幅広い観客層への興味喚起を図った。	35,448人

7	スーパープラネタリウム” MEGASTAR” -138億光年の彼方へ-	2018年10月2日(火) ～11月25日(日) 展示室B(一部)	「海と宙(そら)の未来展」の開催にあわせて実施。1等星から13等星まで2,200万個もの星を映し出すことができるスーパープラネタリウム” MEGASTAR-Ⅱ”による光のエンターテイメント。本物と見間違えるかのような荘厳な星空を再現した。	33,118人
8	国宝、日本の美をめぐる 東京国立博物館名品展	2018年11月2日(金) ～11月25日(日) コレクション展示室	文化庁や国立博物館等の協力を得ながら、国宝、重文を含む名品を多数紹介し、わが国の歴史と文化力が育んだ美の精華に身近にふれあうことのできる機会を提供した。	18,837人
9	現代アートの宝箱 OPAM利岡コレクション	2018年12月8日(土) ～2019年1月20日(日) 展示室B	利岡コレクションは、製薬会社の研究職に従事していた利岡誠夫氏が、約30年間にわたって、現代アートを中心に民俗資料も含めて収集してきた作品群。サイ・トゥオンブリー、シンディ・シャーマンから篠原有司男、中西夏之、森村泰昌など、内外の著名アーティストの作品を多数含むバラエティーに富んだ内容である。本展では、生活の場を飾る身近なアートとしての現代美術の魅力を、良質な作品で紹介した。	4,024人
10	OPAMに恐竜がやってきた	2019年2月2日(土) ～3月3日(日)	国立科学博物館とのコラボレーションにより、恐竜・古代生物の展覧会を開催。絵本「とりになったきょうりゅうのはなし」を題材に、恐竜の標本や化石、復元模型などで絵本の各場面を再現、恐竜から鳥への進化をわかりやすく紹介した。	47,913人
11	飛び出す3D恐竜シアター	アトリウム特設会場、 コレクション展示室(一部)	ティラノサウルスやスピノサウルスが、大画面の中で動き回る迫力の3D映像。3D眼鏡をかけて鑑賞する。まるで恐竜の世界に飛び込んだような臨場感を味わえる。会場には、恐竜や古生物の3Dポスターも掲示。	10,561人
12	古代アンデス文明展	2019年3月8日(金) ～5月6日(月) 展示室A	南米大陸の太平洋岸に展開したアンデス文明は、地上絵のナスカ、巨石文明のティワナク、南北4,000kmに及ぶ広大な地域を支配したインカなど、数々の個性的な文化を生み出してきた。本展では、アンデスに人類が到達した先史時代から16世紀のスペインによる征服まで、約15,000年にわたって花開いた多彩な文化を、遺物や黄金製品、ミイラなど約200点の貴重な資料で紹介した。	10,949人 (3月末日現在)